

訓練計画説明に係る面談（5週間前）時の確認事項

全般

○訓練計画＜資料＞

- ・中期計画上の今年度訓練の位置付け
- ・今年度訓練の目的・達成目標
- ・主な検証項目
- ・実施・評価体制
- ・訓練の項目・内容（防災業務計画の記載との整合）
- ⇒別紙1-1 2021年度福島第一緊急時演習実施計画書 参照
- 別紙1-2 2021年度福島第二緊急時演習実施計画書 参照
- ・訓練シナリオ
 - －プラント運転状態，事象想定，スキップの有無等
 - －現状のプラント状態を踏まえた訓練の実施方針
- ⇒別紙2 福島第一及び福島第二訓練シナリオ 参照
- ・その他
 - －E R S S / S P D S の使用
 - ⇒福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともにE R S S 訓練モード / S P D S 訓練モード使用
 - －C O P 様式
 - ⇒別紙3-1 福島第一COP様式一覧 参照
 - 別紙3-2 福島第一COP様式一覧 参照
 - －即応C，緊対所レイアウト図
 - ⇒別紙4 即応センターレイアウト図 参照
 - 別紙5-1 福島第一緊急時対策所レイアウト図 参照
 - 別紙5-2 福島第二緊急時対策所レイアウト図 参照
 - －E R C 対応ブース配席図，役割分担
 - ⇒別紙6（官庁連絡班レイアウト図）参照
 - －E R C 書架内の資料整備状況（資料一覧）
 - ⇒別紙7-1 福島第一原子力災害時の対応資料集（目次） 参照
 - 別紙7-2 福島第二原子力災害時の対応資料集（目次） 参照

指標 1 : 情報共有のための情報フロー

○発電所、本店（即応センター）、ERCの3拠点間の情報フロー

・情報フローとは、5つの情報

－①EALに関する情報

－指標2に示す情報（②事故・プラントの状況、③進展予測と事故収束対応戦略、④戦略の進捗状況）

－⑤ERCプラント班からの質問への回答について、いつ、どこで、だれが、なにを、どんな目的で、どのような観点からみた、情報伝達の一連の流れをいう。

○情報フローにおいて、前回の訓練における課題及び当該課題を踏まえた改善点を明示すること

・情報フローの確認に際しては、前回訓練での情報共有における課題に対する改善策を反映したものであるかを確認する。

⇒前回の1F/2Fの訓練においては、情報フローにおける課題なし。

ただし、昨年度の柏崎の訓練における課題の改善事項である、発電所の体制が整うまでの間、本社にてCOPを作成することを反映。（福島第一）

別紙8-1 福島第一情報フロー 参照。

別紙8-2 福島第二情報フロー 参照。

指標 2 : ERCプラント班との情報共有

○ERC対応ブース発話者の育成・多重化の考え方の説明

⇒メインスピーカ、サブスピーカは、2018年度、2019年度、2020年度の訓練でそれぞれの役割を担当しなかった者が行うこととし熟練者の増員を図る。

○訓練当日、ERC対応ブース発話者をくじ引き等により選定することの可否（否の場合は、その理由）

⇒福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに対応するスピーカについては、熟練者拡大の観点からこれまでスピーカ役を担当したことの無い者が実施するため、力量向上を目的としてくじ引きは行わない。

指標 3 : 情報共有のためのツール等の活用

(3-1 プラント情報表示システムの使用)

○使用するプラント情報表示システムの説明（実発災時とシステムの差異も説明）

⇒使用するプラント情報表示システムは、SPDS、ERSSを使用し、ともに訓練モードで動作させ、事前に作成したデータを流して訓練を実施する。なお、SPDSについては、ERCプラント班内においてもリエゾンが持ち込むPCにて表示する。

（発電所—本社間：SPDS、本社—ERC間：SPDS、ERSS）

(3-2 リエゾンの活動)

○事業者が定めるリエゾンの役割に関する説明

⇒リエゾンの役割

・即応センターの補助（即応センターメインスピーカーの説明に加え、必要により補足説明の実施）

・ERCプラント班内でのQA対応

・COP類の定期的な共有

※定期的に共有するCOP類

・設備状況シート

・プラント系統概要COP

・重大な局面シート

(3-3 COPの活用)

○COPの作成・更新のタイミング，頻度に関する説明

COP種類		作成タイミング	更新頻度
設備状況シート	1F	免震棟到着後の20分後（発電所作成開始までは本社にて作成）	正時を起点に15分毎
	2F	要員参集後（事象発生より約10分後）	
プラント系統概要COP	1F	発災直後より本社にて作成	正時を起点に15分毎
	2F		
重大な局面シート（SFP）	1F	SFP大規模漏えい発見後	正時を起点に15分毎または情報入手の都度
	2F	水位計No.8露出後	
重大な局面シート（滞留水）	1F	SFP大規模漏えい発見後または滞留水水位増加確認後	正時を起点に15分毎または滞留水増加量が増加する都度
	2F	水位計No.8露出後	
発電所目標設定会議COP	1F	免震棟到着後の15分後	都度更新 （ただし確定版は発電所目標設定会議終了後）
	2F	要員参集後（事象発生より約10分後）	
本社目標設定会議COP	—	本社目標設定会議後	発電所目標設定会議終了後または前回開催より1時間程度経過時
EAL判断シート	—	EAL判断後	—

(3-4 ERC備付け資料の活用)

⇒現在，ERC備付け資料については更新作業を実施中。事前の通信確認実施時に併せて差し替

えを実施させていただく。

指標 4 : 確実な通報・連絡の実施

(①通報文の正確性)

○通報文FAX送信前の通報文チェック体制, 通報文に誤記等があった際の対応

⇒**通報文に誤記等があった場合は, 間違えた通報文に訂正箇所を明確にして再送付する。**

なお, 訂正報は新規番号にて送付する。

○発生したEALが非該当となった場合の対応

⇒**EALの条件を下回ったことの報告については25条報告 (特定事象に至っていない場合は, AL経過連絡) にて通報する。**

○通報に使用する通信機器の代替手段

⇒**通報に使用する通信機器は優先順位が高い順から以下の通り。**

【福島第一原子力発電所, 福島第二原子力発電所】

- ①一般回線 (NTT) FAX
- ②統合原子力防災NW回線FAX (地上系)
- ③統合原子力防災NW回線FAX (衛星系)

(②EAL判断根拠の説明)

⇒**EAL判断シートを活用し説明する。**

(③10条確認会議等の対応)

○10条確認会議, 15条認定会議の事業者側対応予定者の職位・氏名

⇒**福島第一原子力発電所 : 即応センターの副本部長**

個人情報のためマスキング

福島第二原子力発電所 : 即応センターの副本部長

個人情報のためマスキング

(④第25条報告)

○25条報告の発出タイミングの考え方

【福島第一原子力発電所】

⇒**緊急時対策所での活動開始後30分/件を目途に発電所情報及びプラント情報を発出予定とし, EAL通報が複数発生する繁忙時であっても60分/件以内を目標とする。**

【福島第二原子力発電所】

⇒**10条発出後, 30分/件を目途とし発電所情報及びプラント情報を発出予定とし, EAL通報が複数発生する繁忙時であっても60分/件以内を目標とする。**

○訓練事務局側が想定する, 今回訓練シナリオ上の25条報告のタイミング, 回数 (訓練シナリオ中)

にも記載すること)

⇒別紙9-1 福島第一通報文整理表 参照

別紙9-2 福島第二通報文整理表 参照

指標 5 : 前回訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定

- 訓練実施計画が、前回訓練の訓練結果を踏まえ、問題・課題に対する改善策が有効に機能するものであるか検証できる計画（訓練実施項目、訓練シナリオ等）となっていることの説明
- 訓練時における当該改善策の有効性を評価・確認の方法（例えば、訓練評価者が使用する評価チェックリスト（改善策の有効性を検証するための評価項目、評価基準などが明確になっているもの）が作成されていることなど）の説明
- 課題の検証につき、社内自主訓練・要素訓練、他発電所の訓練で対応している場合は、その検証結果の説明
- 今年度の訓練で課題検証を行わない場合にあっては、その理由と検証時期の説明、中期計画等への反映状況の説明。また、今年度の訓練で課題検証を行わずとも緊急時対応に直ちに問題は無いことの説明。

⇒別紙1-1 2021年度福島第一緊急時演習実施計画書 参照

別紙1-2 2021年度福島第二緊急時演習実施計画書 参照

指標 6 : シナリオの多様化・難度

シナリオ情報のためマスキング

シナリオ情報のためマスキング

○シナリオ多様化に関し、付与する場面設定

○訓練プレーヤへ難易度の高い課題をどのように与えているか確認

【福島第一原子力発電所】

シナリオ情報のためマスキング

【福島第二原子力発電所】

シナリオ情報のためマスキング

指標 7 : 現場実働訓練の実施

○現場実働訓練の実施内容

シナリオ情報のためマスクング

○事故シナリオに基づき実施する緊急時対策所の活動との連携に係る説明

シナリオ情報のためマスクング

○他原子力事業者評価者の受け入れ予定

【福島第一原子力発電所】、【福島第二原子力発電所】

別日にて事故シナリオに基づき、緊急時対策所と連携した実働訓練を行い、他原子力事業者から評価をいただく予定。なお、評価方法については新型コロナウイルス感染防止対策として、訓練の様子をビデオ撮影し、その映像を確認し評価いただくことも考慮する。

指標 8 : 広報活動

○評価要素①～⑤それぞれについて、対応、参加等の予定についての説明

- ① E R C 広報班と連動したプレス対応 : 実施
- ② 記者等の社外プレーヤの参加 : 模擬記者兼評価者として広報コンサルティング会社の参加を調整中。
- ③ 他原子力事業者広報担当等の社外プレーヤの参加 : 中部電力または北陸電力へ依頼。
- ④ 模擬記者会見の実施 : 実施 (模擬記者は ② , ③ 社外プレーヤと社内プレーヤで実施)
- ⑤ 情報発信ツールを使った外部への情報発信 : 実施 (模擬 H P , 模擬 S N S)

指標9：後方支援活動

- 評価要素①～③それぞれについて、具体的活動予定（特に、実働で実施する範囲を明確にすること）についての説明
- 一部を要素訓練で実動し、残りを総合訓練で実動するなど、複数の訓練を組み合わせで一連の後方支援活動の訓練を実施する場合は、その説明
 - ⇒①事業者間の支援活動：事業所間協定に基づく支援要請（実連絡）を副幹事事業者である日本原子力発電（株）に依頼予定。
 - ②後方支援拠点との連動：都内の弊社敷地にて、公衆回線が使用できない場合を想定した衛星携帯電話による通信連絡訓練及び、衛星車を使用したTV会議接続訓練、スクリーニングエリアの設営および測定訓練を実施予定。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響によっては、訓練内容を縮小する。
 - ③原子力緊急事態支援組織との連動：本社から支援要請（実連絡）を美浜原子力緊急事態支援センターに実施。
別の日で、発電所では遠隔操作資機材（ロボット）による操作訓練を実施予定。

指標10：訓練への視察など

（①他原子力事業者への視察）

- 他事業者への視察実績，視察計画

【本社】

3社アライアンスの活動により浜岡，志賀へ視察予定。また、各社訓練のERC対応を映像により確認予定。

【福島第一原子力発電所】

今後実施される他事業者（発電所側）の防災訓練を視察予定。

【福島第二原子力発電所】

今後実施される他事業者（発電所側）の防災訓練を視察予定。

（②自社訓練の視察受入れ）

- 自社訓練の視察受け入れ計画（即応C，緊対所それぞれの視察受入れ可能人数，募集締め切り日，募集担当者の指名・連絡先）

⇒即応センター：5名（事業者4名，核燃料施設等1名）

福島第一緊対所，福島第二緊対所：新型コロナウイルス感染防止の観点から受入は実施しない。（訓練映像による確認としていただく）

〆切：即応センター 8月31日（火）

募集担当者：

個人情報のためマスキング

なお、緊急事態宣言が継続している場合は、本社即応センターの受入についても中止とし、訓練映像での確認とさせていただきます。

(③ピアレビュー等の受入れ)

○ピアレビュー等の受入れ計画（受入れ者の属性、レビュー内容等）

【即応センター】

訓練当日に即応Cの活動を中部電力（株）及び北陸電力（株）にレビューして頂くことで調整中。なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、訓練の様子をビデオ撮影し、訓練終了後にその映像を確認し評価いただくことも考慮する。

【福島第一原子力発電所】、【福島第二原子力発電所】

評価者については中部電力（株）及び北陸電力（株）にご協力いただくことで調整中。なお、新型コロナウイルス感染防止対策として、訓練の様子をビデオ撮影し、訓練終了後に評価いただくこととする。

(④他原子力事業者の現場実働訓練への視察)

○視察又は評価者としての参加の実績、予定の説明

⇒各事業者の実施予定を確認し調整する。

指標11：訓練結果の自己評価・分析

—

備考：訓練参加率

○発電所参加予定人数（うち、コントローラ人数）

【福島第一原子力発電所】

⇒140名（30名）

【福島第二原子力発電所】

⇒130名（20名）

○即応センター参加予定人数（うち、コントローラ人数）

⇒215名（20名）

- リエゾン予定人数（うち、コントローラ人数）
- ⇒ **7名（プラントリエゾン：5名、広報リエゾン：2名）**
- 評価者予定人数
- 【福島第一原子力発電所】**
- ⇒ **10名**
- 【福島第二原子力発電所】**
- ⇒ **10名**
- 【本社本部】**
- ⇒ **25名**

備考：中期計画の見直し状況

- 見直し状況，見直し内容，今年度訓練実施計画の位置づけの説明
- 見直し後の中期計画を提出すること
- 前回訓練の訓練報告書提出以降から次年度訓練まで対応実績・スケジュール（作業フローなど）について，以下のP D C Aの観点で概要を示すこと
- 【観点】**前回訓練の訓練報告書提出から今回訓練までと今回の訓練を踏まえた [C] 及び
 - [A] ，中期計画及び原子力防災業務計画への反映 [P] の時期
 - [C] 訓練報告書のとりまとめ時期
 - [A] 対策を講じる時期
 - －具体的な対策の検討，マニュアル等への反映，周知・教育/訓練など（昨年度度の訓練実施結果報告書に掲げた各課題についての対応内容，スケジュールがわかるように記載すること）
 - －原子力事業者防災業務計画への反映の検討事項・時期（定期見直し含む）
 - [P] 中期計画等の見直し事項・時期，次年度訓練計画立案時期
- 前回訓練実施後の面談時に説明したPDCA計画の確認

⇒ **別紙10 中長期計画資料 参照**

別紙11 2021年度緊急時演習に係る対応スケジュール 参照

備考：シナリオ非提示型訓練の実施状況

- 開示する範囲，程度（一部開示の場合，誰に／何を開示するか具体的に記載）及びその設定理由に係る説明
- ⇒ **コントローラ以外はシナリオ非開示とする。**
- ◆事業者とE R Cの訓練コントローラ間の調整事項
- E R C広報班との連動の有無
- ⇒ **連動有り。**
- T V会議接続先（即応C，O F C，緊対所）

⇒統合原子力防災ネットワークのTV会議に、東電即応センター 1 を通常の接続として、東電即応センター2及び柏崎刈羽緊急時対策所を傍聴で接続して頂きたい。

○リエゾンの人数（プラント・広報）、入館時刻、訓練参加タイミング

⇒リエゾン人数はERCプラント班対応5名、広報班対応2名の計7名を予定し、入館時間は12時40分頃、訓練参加タイミングは訓練開始後約25分後（13時35分）とする。

○訓練終了のタイミング、その後の振り返りの要否

⇒訓練の進捗に合わせ、事前にE R Cコントローラと調整を行い、即応センターコントローラより訓練終了の発話を行い、その後振り返りを実施する。

○E R S S仕様に係る当庁情報システム室との調整状況

⇒現在、9月3日又は6日で調整中

○事前通信確認実施の要否

⇒実施させていただく。日程については、9月上旬を希望。別途調整させていただく。

○即応Cコントローラの所属、氏名、連絡先

個人情報のためマスキング

○E R C対応者の職位、氏名

個人情報のためマスキング

○訓練時、メールを利用したE R Cプラント班への資料提供の実施の有無

⇒予定なし

◆その他確認事項

→住民防護に資する情報提供についての弊社が考えている方向性について、規制庁殿が考える内容とずれが無いが確認させていただきたい。